

「そのとき、イエスはでしたちにいわれた」「わたしがちちのもとからあなたがたにつかわそうとしているべんごしゃ、すなわち、ちちのもとからでるしんりのれいがくるとき、そのかたがわたしについてあかしをなさるはずである。あなたがたも、はじめからわたしといっしょにいたのだから、あかしをするのである。

いっておきたいことは、まだたくさんあるが、いま、あなたがたにはりかいてできない。しかし、そのかた、すなわち、しんりのれいがくると、あなたがたをみちびいてしんりをことごとくさとらせる。そのかたは、じぶんからかたるのではなく、きいたことをかたり、また、これからおこることをあなたがたにつげるからである。そのかたはわたしにえいこうをあたえる。わたしのものをうけて、あなたがたにつげるからである。ちちがもっておられるものはすべて、わたしのものである。だから、わたしは「そのかたがわたしのものをうけて、あばたがたにつげる」といったのである。

きょうのおいわいは、せんしゅうのにちようびのごしょうてんののち、きょうせいれいこうりんのおいわいをします。イエスさまがやくそくされたようにでしたちにせいれいがおくられたことをきねんし、おいわいするのです。

でしたちは、じぶんたちもイエスさまとおなじようにつかまるのではないかとまだこわがっていました。イエスさまはてんにのぼられたとき、でしたちに「ちちのもとからあなたがたにつかわすべんごしゃ、すなわちしんりのれいがくるとのいのりながらまっついていなさい。」といわれました。でしたちとともにおかあさまであるマリアさまもいのっていました。そのときとつぜんおおあらしになったようなおとがして、せいれいがみんなのうえにのような形でみんなのあたまのうえにくだりました。(だい1朗読・使徒言行録・2. 1~11)

いままででしたちはすごくこわがっていたのに、ゆうきがでてきて、イエスさまのことをしらせようとそとにでていきました。

せいれいは、「あいのかげです」イエスさまがいわれるようにそのせいれいはわたしたちをたすけ、みちびいてくださいます、そしてイエスさまのおしえをよくわかるようにしてくださいます。せいれいは「かみさまのあいのプレゼントです。あいのかげですから、そのかげをはだでかんじて、むねいっぱいすいこんでみたいとおもいませんか。こころのなかがせいれいとあいでもたされて、きつとめにもえないけれど、こころがいっぱいになってあたたかさをかんじるでしょう、そしてでしたちとおなじようにゆうきでいっぱいになって、まわりのひとにイエスさまのことをしらせる、ちからがでてくるでしょう。

ぬりえ

いのっているうちにみんながせいいにみたされました。

